

E 6 I 家政学における研究方法論の検討

本質的価値(人間守護)より捉える研究方法試論

郡女大家政 ○関口富左 高館作夫 影山彌 真船均 工藤澄子 深谷笑子

目的 家政学が他学と異なる独自性を有する学問であるならば、またそこに独自の特色と有する研究方法もありうるべきであろう。現在出版されている家政学原論関係書等についてこの点を求めても、家政学としての独自の研究方法はみられない。そこで私共は「人間守護」の観点から価値導入による家政学の方法論の構築を試みる。

方法 家政学の目的である「人間守護」を中心理念として、この目的を指向しつつ、人と物とのかかわりにおける諸行為等について、目的⇔生活実態⇔研究方法という一連上において本題を解明する。

結果 生活より飛した学問の成果は生活に還元させてこそ意味と有する。家政学の研究成果もまたしかりである。そこで、いわゆる生活より出て、生活に還るには、そこに回帰性の原理ととり入れることの妥当性を認めた。この研究経過線上には無記性的研究方法(一般に基礎的研究といわれるもの)と使用価値的研究方法(あるものと人間の善き生活に用いることと目的とする。一用語の一部は、アリストテレスの「政治学」による一)とが相互連関によりつつ、整序、修正されて、家政学の新らたな研究方法と構築することができるとの一応の結論とえた。